様式１－２

平成２０年度岡山県林業試験場機関評価票

１　運営方針及び重点分野 【平均 3.3】	非常に優れている　優れている　適当　見直しが必要　全面的見直しが必要 （2人）（4人）

・森林・林業に関する唯一の試験研究機関として県民から試験研究課題を募集するなど県民の要請に沿った実用的な試験研究を行っていることは特に評価できる。
・森林・林業の役割を捉え県民の安心、安全な暮らしを守る機関として適切な運営である。４課題については時宜を得たテーマと思われる。更なる努力を切望する。
・「森林・林業基本法」が示す森林の多面的機能の持続性のための重点課題を４分野にグループ化し、県民やその時代に必要とされる研究課題に取り組む姿勢は評価できる。
・資料のみでコメントできない。

２　組織体制及び人員配置並びに予算配分 【平均 2.7】	非常に優れている　優れている　適当　見直しが必要　全面的見直しが必要 （4人）（2人）

・組織力の向上を願うところであるが、厳しい財政状況の中で、少なくとも現体制を堅持すべきである。現在の普及指導室の人員２～３名とし、研究員の増員と専従研究員の採用を求める。予算については、試験・研究を重視されたい。
・林業は不振であるが、環境など取り組むべき問題が多い中で、研究職７名は少ないと思われる。また、予算においても管理費（林業試験場運営費）を減らし、研究費を増やす努力が望ましい。今後は、外部資金獲得についても取り組んでいただきたい。
・独立行政法人や大学などの研究機関では、近年外部資金獲得の努力が強く求められている。財政的に厳しい岡山県にあっても、一般財源だけでなく、試験場独自あるいは他機関と共同で外部資金獲得の努力をすることが必要ではないか？また、大学、森林総研などと共同研究として外部資金を獲得することで、必要機器などの購入も可能になるのではないか。各課題ごとの予算配分がどのように決定（算定）されているかについても透明化する必要があるのではないか。
・資料のみでコメントできない。

３　施設・設備等 【平均 2.8】	非常に優れている　優れている　適当　見直しが必要　全面的見直しが必要 （4人）（1人）

・広大な敷地を管理しているが、その維持管理費と研究費は分けて投入額の妥当性を検討すべきと考えられる。将来的に研究費の縮小が議論されるならば、研究費が優先されるよう考慮されたい。
・試験林がなく、調査地確保に困窮しているようであるが、それに対する今後の対応策はあるのか。プロセッサー、フォワーダー等の林業機械を所有しているが、その稼動・利用状況が不明である。また、分析機器についても研究課題一覧から全く利用されていないと予想されるものがあるのではないか。これらの利用状況や一部の分析を外部委託することも視野に入れた課題設定を検討しては如何か。展示林の維持管理経費がかなりかかっているが、これらの一般公開を含めた利用促進の方策についても検討をしては如何か。
・施設については、精査検証を行うこと。設備については、時代に即応したものでないと充分な成果が出ないので、努力を願いたい。
・実際の設備等を見たわけではなく、また専門外の設備については判断しかねるので、次回からはそれぞれの分野の「自己点検・自己評価」を示して欲しい。

４　研究成果 【平均 3.2】	非常に優れている　優れている　適当　見直しが必要　全面的見直しが必要 （2人）（3人）（1人）

・成果は十分に出ているが、研究課題が育種関係に偏っているように見える。
・研究成果が研究情報の公表にとどまらず､品種登録や特許出願にまで結びついていることは、特に評価できる。
・ホームページなどを通じて公表している点は評価できるが、さらに研究員、技師が６名研究に従事していることを考えれば、その成果を関連学会や研究会などでも積極的に発表する必要があるのではないか。
・昨今の森林・林業の課題に一定の評価とする。森林・林業の成果を見るには長い年月が必要であり、事前評価をしっかり行い、誰が、何を、どのように、何のためにを整理する。基本は自己評価である。手盛りと見られがちであるが、評価基準が明確であれば、客観性、緊張感が保たれる。
・徐々に成果の見えてきているものがあると思う。
・人数と予算と要望研究テーマから考えて、概ね評価できる。しかしながら１課題当たり平均５０万円前後の研究費は、森林総研の委託費と比較するとはるかに少なく、限界を感じる。外部資金の積極的な導入が望ましい。

5　技術相談･指導、普及業務、行政検査、依頼試験等の実施状況　【平均 3.3】	非常に優れている	優れている	妥当	見直しが必要	全面的見直しが必要
		(2人)	(4人)		

・実施されている点は評価できる。
・技術相談・指導の件数が増加傾向にあることは評価できる。今後も積極的に技術相談・指導業務を行っていただきたい。
・林試内での普及の位置づけを明確にし、活動をどう行うか、森林課との業務内容の役割分担・連携が課題ではないか。年間の普及計画を策定し、外部活動を期待する。山村地域では集落の限界、消滅が迫っている。足を運び、現状を見聞願いたい。
・技術相談等、適切に対応できていると思う。
・相談延べ件数は、毎年増加しており望ましい状態と考える。さらに一歩進んで、収入につながるような指導等は考えられないか。

6　人材育成　【平均 3.5】	非常に優れている	優れている	妥当	見直しが必要	全面的見直しが必要
	(1人)	(1人)	(4人)		

・研究者が一定期間（長期）異動しないで研究を継続している点は、成果をあげるために重要なことであり、評価できる。今後さらに研究成果をあげるには、博士号の取得や文科省予算（科学研究費）の申請等の推進が望ましい。
・今後も積極的に研究職員を他機関に派遣し、新たな技術の習得、人材育成を図っていただきたい。
・森林組合・林業事業体等の作業班員の育成に、多大なる貢献をされている。今後ともその役割は重要であり、林試の職員の更なる研鑽努力を願う。
・必要に応じ研修派遣を行っているので評価できる。(具体例がほしい。)

7　他機関との連携　【平均 2.8】	非常に優れている	優れている	妥当	見直しが必要	全面的見直しが必要
			(4人)	(1人)	

・今後も積極的に他機関と連携し、効率的な試験研究を行っていただきたい。
・関係機関との連携は、効果的に実施されていると見るが、今、何を課題として研究されているのか、成果はどうか、一般的に知られていない。山と海の関係が重要とされている。水産試験場・漁業関係者と連携を図られたい。特に木材加工技術センターとの定期的交流を希望する。
・隣に育種場も有り、もっと連携を密にとっても良いのではないか。
・林業の専門機関や県内の研究機関との情報交換は行われているが、更に視点を変えて、例えば竹炭の利用促進のため、食品企業、住宅会社等との商品化や「きのこの家庭栽培キット」、「苗木による室内二酸化炭素浄化キット」、「自宅で育てる樹キット」等のアイデア提案や開発連携もおもしろいのではないか。

8　県民への情報発信　【平均 3.0】	非常に優れている	優れている	妥当	見直しが必要	全面的見直しが必要
		(1人)	(4人)	(1人)	

・随時ホームページの更新を行い、わかりやすい情報を広く発信していることは、特に評価できる。
・一般的に低調に思われる。たとえ必要な機関であっても、県民に認知されなくてはならない。マスコミ公開、県の広報、森林組合系統の広報紙等を活用し、林試の存在感をアピール願いたい。
・ホームページへの情報提供はできているので、関心のある人へはできているが、その他一般の人へのPRが足りない。年に数回簡単なイベントで来場して楽しんでもらい、将来的には里山ボランティア、森林ボランティアへと参加を導く。

9　前回指摘事項への対応	非常に優れている	優れている	妥当	見直しが必要	全面的見直しが必要

（該当無し）

総　合　評　価 【平均 3.5】	非常に優れている	優れている（3人）	妥当（3人）	見直しが必要	全面的見直しが必要

・少ない研究人員で多くの研究を推進し、成果をあげられている。ただし、研究分野が育種に偏っているように見受けられた。県のニーズと関連づけて整理されたなら、重点的に研究すべき事情が理解できたと思う。県内の森林の特徴や行政ニーズについての予備知識がないまま、組織体制や研究課題の妥当性について評価することは困難である。また、予算の妥当性評価には、予算額のデータが必要である。この評価票には、評価委員が評価を下せない事項が幾つも含まれていたので、次回には改善をお願いする。評価会議では、すべての研究課題について詳しく説明するのではなく、要点を絞った方が評価しやすくなる。また時間も短縮できる。
・森林・林業に関する唯一の試験研究機関として県民から試験研究課題を募集するなど、県民の要請に沿った実用的な試験研究を行っている。成果は、研究情報の公表にとどまらず、品種登録や特許出願にまで結びついており、技術相談・指導の件数も年々増加傾向にある。
また、随時ホームページの更新を行うなど、わかりやすい情報を広く発信している。以上は、特に評価できる点である。より充実した試験研究を行うため、今後は、外部資金獲得についても取り組んでいただきたい。
・試験場で得られた貴重な成果を普及指導員研修や公社へ「説明」するだけでなく、現場へフィードバックできる方策を行政サイドと一体で作り上げる体制と、それら成果に基づいて施業実践を行った業者、林家へのフォローアップ（事後検証）体制の構築を望む。
・林業試験場は、戦後の人工造林の推進に寄与してきた。森林の当面する課題、20年、50年先のあるべき姿を位置付け、その要旨を森林組合・林家に周知させること。昨今の森林・林業が厳しい中、森林整備、林産事業の効率的・効果的な作業方法を見いだし普及を図ること。
台風による倒木・山腹崩壊箇所を把握し、防止方法や土壌補強効果を有する樹種の選定基準を策定し普及に努める。林業試験場を定期的に開放し、将来を担う子ども達の森林・林業教育に活用してはどうか。林業試験場は、森林・林業の重要性に鑑み、更なる発展の必要があり、試験・研究のため、存続を強く要請する。
・ヒノキ種子の着果促進、カメムシ防除など素晴らしい成果の事業も有る。民間ではできない地道な研究をこれからも続け、成果を県内に普及していただきたい。
・研究テーマの期間は、３年だけでなく、長期展望テーマがあってもいいのではないか。また、結果によっては、中途打ち切りや延長も可とできるような柔軟性も欲しい。次回からは、各自の自己採点・自己評価に類するものを提示してもらうと評価がしやすい。

留意事項　評価については、いずれかに〇印を付け、下欄に助言、指摘事項等を記入